

海外安全対策情報 令和元年度第1四半期（4月～6月）

1 社会・治安情勢

コナクリ市を含むギニア全体で電気・水などの生活インフラは極めて脆弱であり、コナクリ市内及び郊外でこれに抗議する道路封鎖や投石等による物損被害が頻繁に発生しています。その他、政府に対する抗議活動が頻繁に行われています。

2 一般犯罪・凶悪犯罪の傾向

4月にはキシドゥグ県、5月にはマムー県、6月にはシギリ県にて強盗殺人事案が発生しています。また、国境、県境周辺や幹線道路沿いでは、長距離タクシーや乗用車を狙った武装強盗による被害も治安当局により確認されています。家族を含め犯罪に巻き込まれないよう、行動には注意を払い、安全を自ら守る心構えが必要です。防犯の心構えとして、当館ホームページに掲載の【安全の手引き】をご覧ください。

(1) 一般犯罪・凶悪犯罪事案（主な事件）

(ア) キシドゥグ県

4月、武装強盗がタクシーを襲撃し、乗客に発砲し1名が死亡、1名が重傷を負いました。

(イ) マムー県

5月、国道1号線のマムー～ダボラ間でタクシー運転手が武装強盗集団によって撃たれ、死亡しました。

(ウ) シギリ県

6月、シギリからバマコ（マリ）間で武装強盗に襲われた男性が死亡しました。

(2) 邦人被害事案

5月、邦人が、タクシー乗車中にリュックの中から財布を抜き取られる事案が発生しました。

(3) 在留外国人（邦人以外）の被害事案

6月、サッカーの試合に熱狂した一部サポーターが投石を行い、アメリカ人所有の車両が一部破損しました。

3 テロ・爆弾事件発生状況

ギニア国内ではテロ・爆弾事件は発生していませんが、治安当局は昨今の西アフリカ諸国におけるテロ発生を受けて、主要なホテルや公共施設に治安部隊を配置し警戒に当たっています。

4 誘拐・脅迫事件発生状況

在留邦人，在留外国人の被害事案は確認されていません。

5 対日感情

ギニア国民の対日感情は概ね良好です。

6 日本企業の安全に関わる諸問題

ギニア国民の対日感情は概ね良好であることから，日本企業であることを理由に犯罪の標的になる可能性は低いと思われず。

以上